

● 2014 年の世界の主な火山活動

平成 26 年（2014 年）に噴火が報告された主な火山（日本を除く）*は図のとおりである。
このうち顕著な活動がみられた火山は以下のとおりである。

バウルダルブンガ（Bardarbunga）アイスランド（図中 A） 標高 2,009m

8 月 29 日に割れ目噴火が発生し、その後も溶岩の噴出と大量の火山ガスの放出が継続した。

12 月 29 日現在、溶岩に覆われた面積は 82.8km²に達し、アイスランドでは 1783 年から 1784 年に噴火したラキ火山の噴火以来の規模の溶岩流出となった。大量の火山ガスの放出が継続しており、火山ガスによる局地的な大気汚染も継続した。また、バウルダルブンガのカルデラでは、大きな沈降が観測されており、噴火開始から 12 月 30 日までに合計で 59m の沈降が観測された。

バウルダルブンガ周辺の地震活動は、噴火に先立ち 8 月中旬から活発な状態となり、噴火開始後も活発な状態が継続した。

フォゴ（Fogo）カーボベルデ（図中 B） 標高 2,829m

11 月 23 日午後にフォゴで 19 年ぶりに噴火が発生した。フォゴでは噴火の数週間前から火山活動が高まっており、噴火前日の夜には居住地域で体を感じる複数の地震が発生していた。噴火活動は、爆発的な噴火、溶岩噴泉及び火山灰の放出が特徴的な活動であり、噴火活動は強弱を繰り返し、噴火開始から 12 月の期間を通して溶岩の流出が継続した。

カルデラ内の 2 つの村の 90%以上が溶岩に覆われ、住宅や、農地、道路などの社会基盤が埋没した。

ケルート（Kelut）インドネシア（図中 C） 標高 1,731m

2 月 13 日 22 時 50 分及び 23 時 30 分に大規模な噴火が発生した。衛星データの解析によると、噴煙は成層圏まで上昇し、一部は最大で海拔 26km に達していたことが確認された。火山灰は火口から 200km を超える広範囲で確認され、この噴火により 7 つの空港を離発着する航空便に欠航が生じ、降灰と火砕物によって、学校、住居、商業施設などを含む建物が破壊された。インドネシアの国家防災庁によると、マラン県では 7 名が死亡し、3,782 軒の住宅等に被害が生じた。また、2 月 18 日には激しい雨により、火山泥流が発生し、住宅や橋が破壊される等の被害も発生した。

この噴火前の 1 月から 2 月上旬にかけて、地震活動の増加、山体膨張及び火口湖の温度の上昇などが観測されており、これを受けてケルートの警戒レベル（1～4 の 4 段階の指標）は、2 月 10 日にレベル 3、2 月 13 日 21 時 15 分にはレベル 4 に引き上げられていた。

2 月 14 日以降、火山活動は低下し、警戒レベルは、2 月 20 日にはレベル 3 に、2 月 28 日にはレベル 2 に、8 月 12 日にはレベル 1 に引き下げられた。

シナブン（Sinabung）インドネシア（図中 D） 標高 2,460m

2013 年 9 月 15 日の噴火開始以降、噴火活動が継続し、2014 年の期間を通して溶岩ドームの崩落に伴う火砕流が断続的に発生した。

2 月 1 日 10 時 30 分には、大規模な溶岩ドームの崩壊が発生し、火砕流が南に 4.5km 流下した。この火砕流によって立入禁止区域（半径 5km 以内）に入域していた 17 名が死亡した。

警戒レベル（1～4 の 4 段階の指標）は、地震活動、地殻変動及び火山ガスの放出量の低下傾向を受けて、4 月 8 日にレベル 4 からレベル 3 に引き下げられたが、その後も繰り返し噴火が発生した。

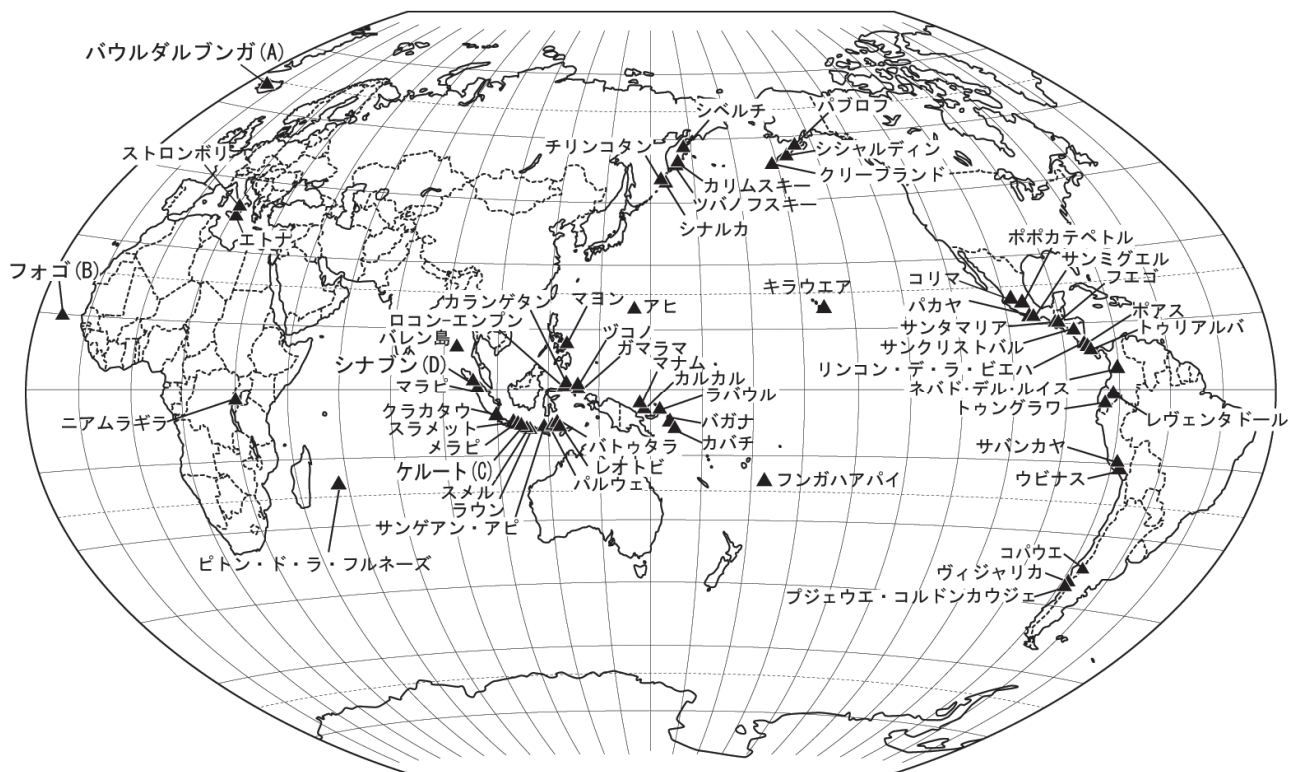


図 平成 26 年（2014 年）に噴火した主な火山（日本を除く）＊

* 米国スミソニアン自然史博物館のホームページ“Global Volcanism Program | Smithsonian / USGS Weekly Volcanic Activity Report” (http://www.volcano.si.edu/reports_weekly.cfm) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。